

# 水土里ネットうらかわ 「環境創造パイオニア」

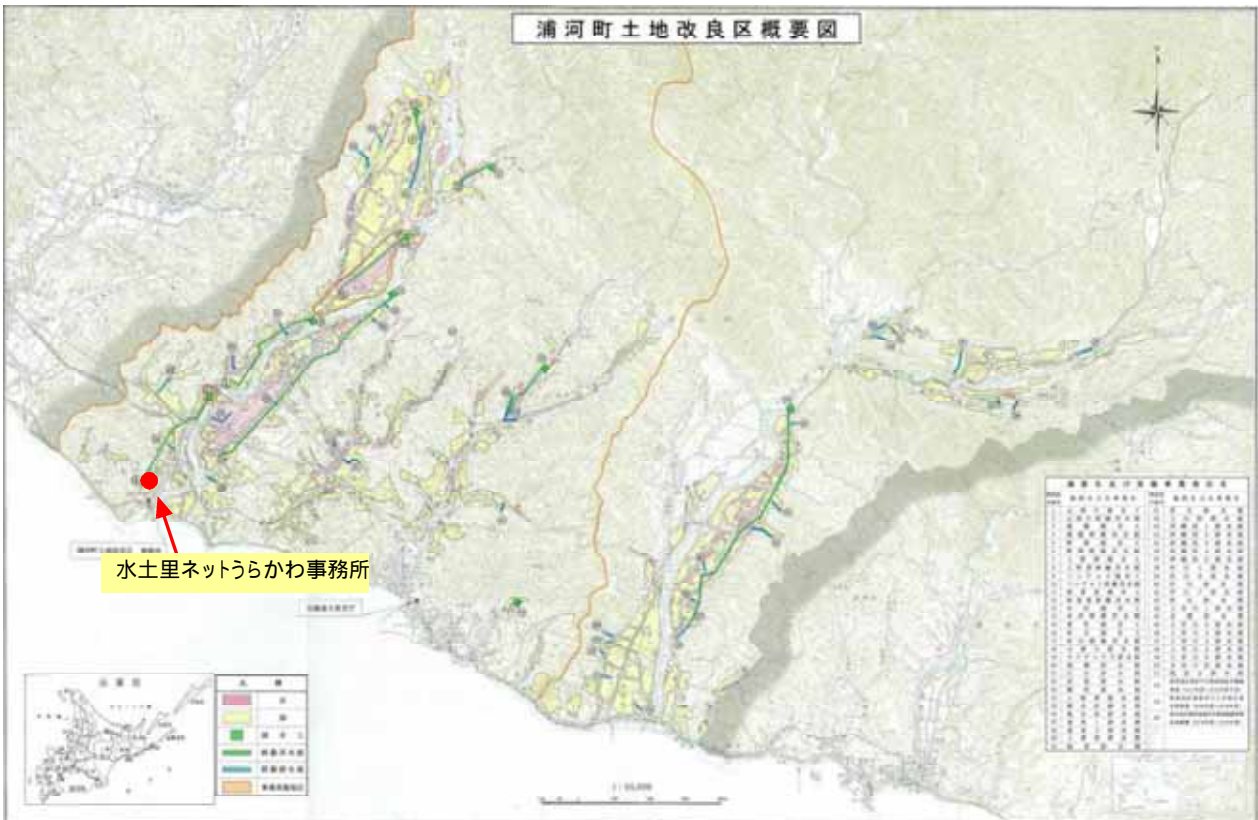
【位置図】



サラブレッドの調教風景



日高昆布の天日干しの風景



## 水土里ネットの概要

### 1. 水土里ネットの概要

- ・水土里ネット名：水土里ネットうらかわ（浦河町土地改良区）
- ・理事長名：尾野 一義
- ・役職員数：役員 17名、職員：4名（常勤2名、臨時2名）
- ・住所：北海道浦河郡浦河町荻伏町15番地
- ・連絡先：電話 0146-25-2152  
FAX 0146-26-3144  
e-mail urakawa-kairyoku@amber.plala.or.jp  
URL
- ・受益面積：4,475ha
- ・組合員数：506名（平成22年3月31日現在）

#### ・水土里ネット設立の経緯：

昭和38年7月に、浦河町内の2つの土地改良区である荻伏土地改良区と杵臼土地改良区が合併し、浦河町のほぼ全域を地区とした「浦河町土地改良区」が誕生した。

合併前の各土地改良区の経緯については以下のとおり。

#### 荻伏土地改良区

大正10年4月、荻伏東部土功組合設立。

昭和23年1月、元浦川・瑞穂・下野深・ヒトツの各地区水利組合が荻伏東部土功組合に加入し、荻伏土功組合に組織変更。

昭和26年4月、土地改良法の公布により荻伏土地改良区に組織変更。

#### 杵臼土地改良区

大正11年9月、杵臼土功組合設立。

昭和26年4月、土地改良法の公布により杵臼土地改良区に組織変更。



大正時代の荻伏東部土功組合事務所。旧「赤心社」事務所



大正時代の排水路新設工事

## 2. 地域の特徴

### (1) 地理

水土里ネットうらかわは、北海道南東部の日高地方東部に位置し、国定公園としては日本最大の日高山脈襟裳国定公園の雄大な山並みと太平洋に囲まれた、水と緑豊かな田園と牧場地帯が広がる浦河町を地区としている。

太古からの自然が残された日高山脈を源とする元浦川をはじめとする大小5つの河川流域に平地と丘陵地が見られ、各河川からの農業用水の供給による平地での水田地帯と、丘陵地帯では温暖な気候による牧畜が盛んに行われ、特に軽種馬（サラブレッド）が多く生産されている。

地質は、変成岩・深成岩に続いて中生代の泥岩・砂岩が分布する。土壌は、埴壤土や埴土が多く、一部泥炭土や黒ぼく土なども見られる。

交通網は、海岸沿いにJR日高本線や国道が連絡し、苫小牧付近からは道央自動車道や日高自動車道などの高速道路が整備され、北海道の中心都市である札幌市までは約200kmで連絡している。



日高山脈を背景に、サラブレッド



浦河町市街



土地改良区受益地区の一部である荻伏地区

### (2) 社会経済

浦河町の人口は、昭和34年の2万3千人をピークに、その後は減少が続き、平成21年は1万4千人まで減少している。これは、町の基幹産業である農業の低迷や漁業の200海里漁業水域制定による漁業水域の減少など産業構造が変化したことに加え、官公庁や企業の合理化や縮小、廃止なども人口減少の要因となっている。

一方で、新たな取り組みとしては、平成5年に日本中央競馬会が、若い競走馬を育成することを目的に、1,500haという広大な敷地に1,000mの屋内直線馬場をはじめとする多くの調教施設をオープンし、若馬の鍛錬の場として世界に誇れる施設となっている。

日高地方は、日本一の軽種馬の生産地であり、特に浦河町は生産頭数が多く、名馬「シンザン」や「テイエムオペラオー」などの優駿の故郷である。しかし、日本の長引く不況によって馬の売れ行きが低迷していることから、浦河の軽種馬経営構造の改革が進展し、肉用牛や施設園芸等への複合経営への転換が進んでいる。



軽種馬育成調教センターの屋内馬場



うらかわ共同肥育センター。三石和牛のブランドで出荷頭数が増加している

### (3) 歴史・伝統文化

海洋性気候の影響により、夏は涼しく冬は温暖で積雪が少ないため畜産に適しており、安政4年の江戸幕府による馬牧場が開設されて以来、馬産振興が図られている。

また、良質な日高昆布をはじめ豊富な漁業資源など自然に恵まれ、北海道内でも早くから開けた町のひとつである。

当町の米づくりは、明治15年に兵庫県などから移住した開拓会社「赤心社」の大規模な造田とかんがい施設の建設により本格化し、その後、土功組合が引き継ぎ、現在は土地改良区が農地と水利施設を守っている。

ここで、開拓記念碑の碑文を紹介する。



#### 開拓記念碑の碑文

明治十三年、旧撰州三田藩士鈴木清は北海道開拓を計画して赤心社を創設した。そして日高国浦河郡荻伏村に入り地勢を調査した。ついで十五年五月赤心社同志沢茂吉は、兵庫、愛媛、広島県人を80余名招致して開墾に従事した。この時をもつて荻伏村開基とする。

当時は樹木密生し萩や蘆が叢生し熊や猪、狐などがすんでいた。それ以来、入植たちは一致協力して樹木を切り倒し茅を焼き払い土地を拓き、そして教育と宗教に心を用い、人々の正しい生き方の教育に尽力した。

明治四十三年内務大臣は開拓事業の模範としてこの業績を表彰した。現在は人家約一千にも及び耕地や牧場は数里にも及び広大さを有し、鶏や犬の遊ぶ様子や美田良畑を遥かに望み盛えて村人達が生計を喜び村の平和を楽しむことが出来るのも先人達が神を敬い、国にその恩を報いんがためと云う、努力のおかげである。

今ここに私達村人皆が集まって相談し、記念碑を建てようと考えたのは、先人達の尊い業績を敬い、慕い又後世の人達が自信と誇りをもって励んでほしいことを念願するのである。

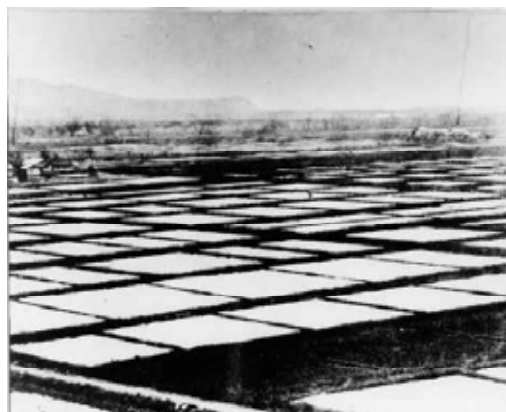
以上、理由とその状況を記す。

昭和十年九月 荻伏村 向井 裕蔵

現在の浦河町は牧場が多く見られるが、昭和四十年頃までは、町内河川流域全てがうちつづく稲穂の波におおわれており、入植した開拓の農家の求めた一つの到達点だったように思える。



大正6年、元浦川かんがい用取水口完成記念。  
赤心社による取水口設置工事



赤心社による造田計画。

#### (4) 景観・自然環境

北海道の南東部に位置している浦河町は、海洋性気候の影響で夏は涼しく、冬は温暖なため、住みよい自然環境に恵まれている。気温と日照時間の季節変化が小さく、一日の最高気温と最低気温の差も比較的小さいことから、道内でも四季を通じて温暖な地域である。夏は、真夏日になるのは稀で、熱帯夜は昭和46年以降30年間で一度も観察されたことがなく、涼しく快適である。冬は、11月上旬に初雪がみられることもあるが、根雪となるのは12月下旬以降であり、降雪が一度に20cm以上になることはほとんどなく、除雪作業の心配は少ない。

優駿の里として知られている日高地方浦河町は、サラブレッドの牧場が、雄大な日高山脈と太平洋に囲まれた丘陵地に多く点在し、その風景はアジアの中のヨーロッパと称されています。

この牧歌的な景観のある農村に住んでいる地域の住人が、この素晴らしい資源を認識し調和のとれた農村の景観等の維持・創出のため、平成14年より花の植栽活動（フラワーロードづくり等）を行っており、徐々に広がりを見せている。



## 21 創造運動取り組み体制

### 1. 水土里ネットの役員、職員及び組合員の21創造運動取り組みの意識

#### (1)「水土里ネット役員」の21創造運動取り組みの意識

農業者の減少と高齢化、さらには80%を超える水田の転作が進み、下部組織（水利組合）の脆弱化等により、末端水利施設の日常管理体制と施設機能の低下が深刻化してきた。また、非農業者には土地改良区の認知度は低く、農業水利施設の役割や土地改良事業への理解もそれほど得られていない状況であった。

このため、平成13年度からの21創造運動の呼びかけを契機に、理事会や役員で構成する総務委員会や工事委員会で、改めて地域農業の現状・課題などを踏まえた土地改良区の役割を再認識するとともに、地域の要請に対応し、地域から期待される新たな役割・機能を担っていくための取り組みなどについて検討を進めた。

これらを踏まえ、組合員はもとより地域住民、町行政、関係農業団体等の土地改良区に対する理解促進を図り、これまでの水管理を主体とした土地改良区から、農地も含めた地域資源の保全管理を担う土地改良区として前進することをめざし、それぞれの地域の役員がリーダーとなって理解促進等に努めてきた。

このような中で、平成18年度には、農地・水・環境保全向上対策の実験事業においていち早くモデル地区として手を挙げ、土地改良区が主体となって効果の高い活動内容、推進体制の検討を行った。19年度からは、同対策が本格実施され、土地改良区が事務局となって活動組織を立ち上げるとともに、地域連携型の管理体制の強化を図るため、特に役員は活動組織の指導的立場として、効果の高い活動に貢献してきている。このことが、土地改良区の運営基盤の強化と土地改良事業の円滑な推進につながってきている。

また、特に、地域の産業祭り「柏陽館まつり」では、農地・水・環境保全向上対策の活動組織とも緊密な連携を図り、理事長はじめ地域の役員が、水土里ネットのブースで「農地や農業用水等の地域資源の保全の重要性」や「農業・農村の多面的機能」「水土里ネットの役割」などについて積極的なPR活動を行っている。



農地・水・環境保全向上対策の活動組織の打ち合わせ会議では、水土里ネットの役員が指導的立場とし



平成21年9月27日の産業祭り「柏陽館まつり」でパネル展やアンケート調査を実施。役員の協力も

#### (2)「水土里ネット職員等」の21創造運動取り組みの意識

現在、当水土里ネットの地区は、面積4,400haという浦河町一円の広範囲の中、職員2名、臨時職員2名の少人数で業務に当たっているため、職員の意思の疎通を図りながら、目的意識を明確にして、4名全員が積極的に行動している。

また、職員の少ないところを補ってもらうためにも、役員の積極的な参加を促しながら進めている。

創造運動の実施に当たっては、特に北海道日高振興局や浦河町・JAひだか東などの関係団体のほか自治会や学校、地域活性化グループなど多様な組織等の連携が必要なことから、職員が積極的にそれらに出向き、理解を得ながら支援・協力を求めている。

また、運動の企画立案に当たっては、職員全員からの意見やアイデアを出してもらうとともに、組合員や行政機関からも積極的に意見やアイデアを求めている。

特に、子どもたちが参加する活動については、安全を第一としながら、楽しく学べる体験をとおりて農業を理解してもらえるように心がけている。



平成21年5月28日の田んぼの学校での田植え体験。

### (3)「水土里ネット組合員」の21創造運動取り組みの意識

水土里ネットと町内3つの小学校が連携をして、「田んぼの学校」米づくり体験学習を行っているが、田植えや稲刈りの時には、子どもたちへの指導や世話のために、近所の組合員の積極的な参加を得ている。

また、農地・水・環境保全向上対策が始まってからは、水路敷地等への花の植栽や草刈りに積極的な参加を得ているとともに、自治会の会合などで、組合員が非農業者の積極的な参加を呼びかけるなど、今では、自治会での一斉草刈り作業は、自治会行事の中で最高の人出となっている。

創造運動がスタートした当初は、水土里ネットからの協力の呼びかけに対し、なかなか理解してもらえないことも多かったが、少しずつ活動の輪を広げることによって徐々に理解促進が図られた。

特に18年度からの農地・水・環境保全向上対策のモデル地区（水土里ネットが事務局）として活動を行うことになってからは、地域が一体となって地域農業・農村を守っていこうという機運が大幅に高まり、水土里ネットの役割も再認識されて組合員の水土里ネットに対する期待も高まったと感じている。



平成21年5月28日の田んぼの学校。近所の農家の



平成21年8月29日の農道草刈りに集まった「姉茶

## 21 創造運動の意義性

### 1 . 21 創造運動に取り組むこととなった背景・きっかけ

現在、浦河町の転作率は80パーセントを超えているが、その殆どが飼料用作物である牧草への転作である。これは、昭和40年代からの競馬ブームによって、多くの軽種馬（サラブレッド）が高値で取引され、昭和45年からの転作とあいまって、軽種馬生産へ切り替える農家が増えたためであり、転作の優良作物とされていた。

しかし、近年、娯楽の多様化や長引く不況により、軽種馬の売れ行きは下降の一途をたどり、かつては、町内で年間2,000頭以上生産された軽種馬は、現在では1,300頭にまで減少しているも売れ行きは不調であり、農家経済は逼迫している。

このような中で、平成13年度まで継続していた農業農村整備事業が完了し、改めて今後の財政計画の中長期見通しを試算したが、現在の賦課金単価では、現状のままでの水土里ネットの運営は厳しいものとなった。今の農家経済の状況では、賦課金単価の値上げは非常に困難なことから、運営経費の節減と維持管理等の一層の合理化に向けた協議を進め、まずは、役職員、組合員自らできることは自分たちで行っていくとともに、町や農業関係団体、非農家を含めた地域住民等に水土里ネットの役割を理解してもらい、できるだけ支援・協力を求めることとした。

何度も役員会を開催し、役職員自らが土地改良区の役割を再確認するとともに、組合員はもとより一般町民への水土里ネットの役割や農業農村整備事業への理解促進に向け、できるところから運動に取り組んでいった。

水土里ネット職員が小学校のPTA活動に参加していたことから、地元の荻伏小学校へ米づくり体験学習「田んぼの学校」の提案を申し入れて、その年から実現。また、道営ため池等整備事業によって整備した幹線水路の完成を機に、用水路敷地への花の植栽活動を地先農家へ打診したところ、賛同者が集まって植栽活動のグループを結成しフラワーロードの造成が始まった。

このような活動の中で、水土里ネットの役割が徐々に浸透し、特に平成18年度からは、農地・水・環境保全向上対策のモデル地区の事務局として活動の中心的な役割を担うこととなり、ひいては水土里ネットに対する町や関係団体等からの理解、支援・協力を得ることにもつながってきている。

### 2 . 2 1 創造運動に取り組むに当たって掲げた理念

#### (1) 基本理念 (スローガン:地域の財産、『水』『土』『里』を良好な状態で次世代へ継承する)

課 題 軽種馬生産の低迷、農家従事者の減少と高齢化

- ・軽種馬と水田・畜産等との複合経営が多い当地域において、軽種馬生産の低迷や担い手不足等による農業従事者の減少・高齢化により、農業生産構造が脆弱化

影 響 農地や農業用水等の地域資源の保全・管理体制の低下、農業形態の多様化、水田汎用化の大幅な進展

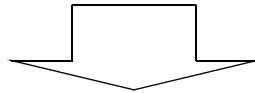
- ・集落機能の低下により水利施設等の日常管理体制が脆弱化し、施設機能保全や農業・農村の多面的機能の低下
- ・いちごをはじめとする施設園芸や肉用牛の生産など農業経営が多様化し、水田の汎用化が大幅に進展

対 策 効率的・効果的な農地・農業用水等の資源管理体制の確立

- ・効率的な農業用水の管理体制の整備



- ・地域住民等と連携した資源保全管理体制の構築
- ・農地・水・環境保全向上対策の活動組織との連携強化
- ・農業関係機関・団体との一層の連携強化



## 21 創造運動への展開

### 「水土里ネットうらかわ」の創造運動の基本理念

地域の財産、『水』『土』『里』を良好な状態で次世代へ継承する

#### （内部運動）

～自己確認・自己変革の取組～  
 水土里ネット自身が、「水」「土」「里」を守り  
 育む組織としての役割を再認識  
 地域の要請に対応し、水土里ネットに期  
 待される新たな役割・機能を担うための共  
 通認識の醸成

#### （外部運動）

～道民・国民への理解の醸成～  
 農業・農村の多面的機能や農地・農業用  
 水等の地域資源保全の重要性について、  
 地域住民等の理解を醸成  
 水土里ネットの果たしてきた役割、これか  
 ら果たしていく新たな役割・機能につい  
 て、地域住民等の理解を醸成

### 新たな水土里ネットの創造

地域が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織として発展  
 地域との多様な連携のもとに農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っ  
 ていける組織として発展

## （2）基本理念の決定機関

（該当する を に置き換えてください。）

水土里ネット総（代）会

水土里ネット理事会

水土里ネット内部（事務局レベル）

## 21 創造運動の継続性・発展性

### 1. 2.1 創造運動の担当部署

2.1 創造運動を実践していくため水土里ネット内に担当部署を設けている。

担当部署： ( 人)

リーダーの役職・氏名等：

特に担当部署は設けていないが、組織（役職員）として取り組んでいる。

職員はいないが、役員が中心となって取り組んでいる。

その他：

### 2. 将来の運動を担う後継者を育てるための工夫

職員数が少ないため、創造運動の取り組みに当たっては職員全員で企画立案を行っている。特に、若手職員には積極的に参加してもらい、子どもからお年寄りまでの地域の人との接し方を学ばせている。

また、役職員が水土里ネット北海道主催の2.1創造運動セミナー等に積極的に参加しているとともに、道内水土里ネットが取り組んでいる創造運動の先進的な事例を視察研修して、より効果のある運動の展開に努めている。

「田んぼの学校」の開校に当たっては、体験ほ場を提供いただいている町内3箇所の農家組合員から体験メニューや指導方法などの意見やアイデアを取り入れている。

さらには、組合員でもある水土里ネット職員が、これまでの地域活動に対する貢献が認められ、北海道から「ふるさと水と土指導員」として認定されており、「ふるさと水と土基金全国研修会」や、道内の指導員研修会などに積極的に参加して、多様な活動の知識の習得や先進地での取り組み事例などを研修し、活動に反映させている。

農地・水・環境保全向上対策での活動を通じては、農業者等に「農業水利施設をどう守っていくか、地域の活性化に向けて何ができるのか」などを考える機会をもっている。また、自治会を通して非農業者の方にも、農業・農村と水土里ネットとの積極的な関わりを持ちながら、水土里ネットの役割、運動の継続の必要性などについて理解促進を図っている。



水土里ネットの職員が、北海道から「ふるさと水と土指導員」の認定を受け、地域の活性化等に向けた指導的な役割を担っている。写真は、指導員研修会の様子

### 3. 人的な広がりのための工夫

小学生を対象とした「田んぼの学校」は、平成14年の春の田植え体験から始まった。このときは、荻伏小学校1校での取り組みであったが、平成16年には浦河東部小学校、平成17年には野深小学校にも実施計画を提案して「田んぼの学校」が開校されることとなった。その都度、学区内の農家と調整して「田んぼの学校」開校の協力をお願いをし、現在もこの3小学校での活動を継続している。田植えや稲刈りなどの年間スケジュールは、それぞれの小学校と日程を調整し、できるだけ多くの水土里ネットの役職員が指導に当たることとしている。

平成21年には浦河東部小学校から出前授業の依頼もあり、職員が学校に出向いて、農業に欠かすことのできない農業用水や農業水利施設の役割、水土里ネットの仕事などを紹介した。

また、多くの人に水土里ネットの活動状況や農業農村整備事業を紹介するため、新聞社等にプレスリリースを行ってきており、平成21年度は北海道新聞・日本農業新聞・日高報知新聞等に30

回程度掲載されており、平成18年と20年にはNHKローカルニュースに小学生の田植え等の様子が5回放映され、情報発信にも力を入れている。

## 4. 継続的な運動の展開

### (1) 財源状況

自主財源等を活用している場合は、該当する を に置き換えてください。(複数回答可)

予算書に活動費の項目立てをしている(理事会の議題に取り上げている)

予算には計上していないが、その都度、理事会にかけて支出している。

今後とも、自主財源を確保できる見込みである。

活動によっては、参加者から参加費用をいただいている。

(活動名: \_\_\_\_\_ 会費の額: \_\_\_\_\_ )

補助事業を活用している場合は、該当する を に置き換えてください。

補助事業の期間中は確保されている。

補助事業終了後は、自主財源から支出する予定。

補助事業の終了後は、財源は未定。

他の機関から財政的な支援を受けている場合は、該当する を に置き換えてください。

他の機関からの支援は当分の間、確保されている。

他の機関からの支援が終了した場合、自主財源から支出する予定。

他の機関からの支援が終了した場合、財源は未定。

### (2) 21 創造運動を継続していくための工夫 (身の丈に応じた地道で無理のない運動ですか。)

3つの小学校は、毎年5年生を対象に田んぼの学校が行われており、子どもも大人も新鮮な感覚で米づくり学習にあたっている。田んぼの学校は、3校とも5年生の総合学習の中に位置付けられ、その年の担任の教師がカリキュラムを組んで学習を進める。水土里ネットと受け入れ農家、学校とで毎年、日程調整を行っており、今では毎年の地域恒例行事として、農家からも大変好意的に協力をいただいております。小学校では「田んぼ学校」を通じた地域の人々との交流を進めるためにも継続的な実施を望んでいる。町教育委員会からも、

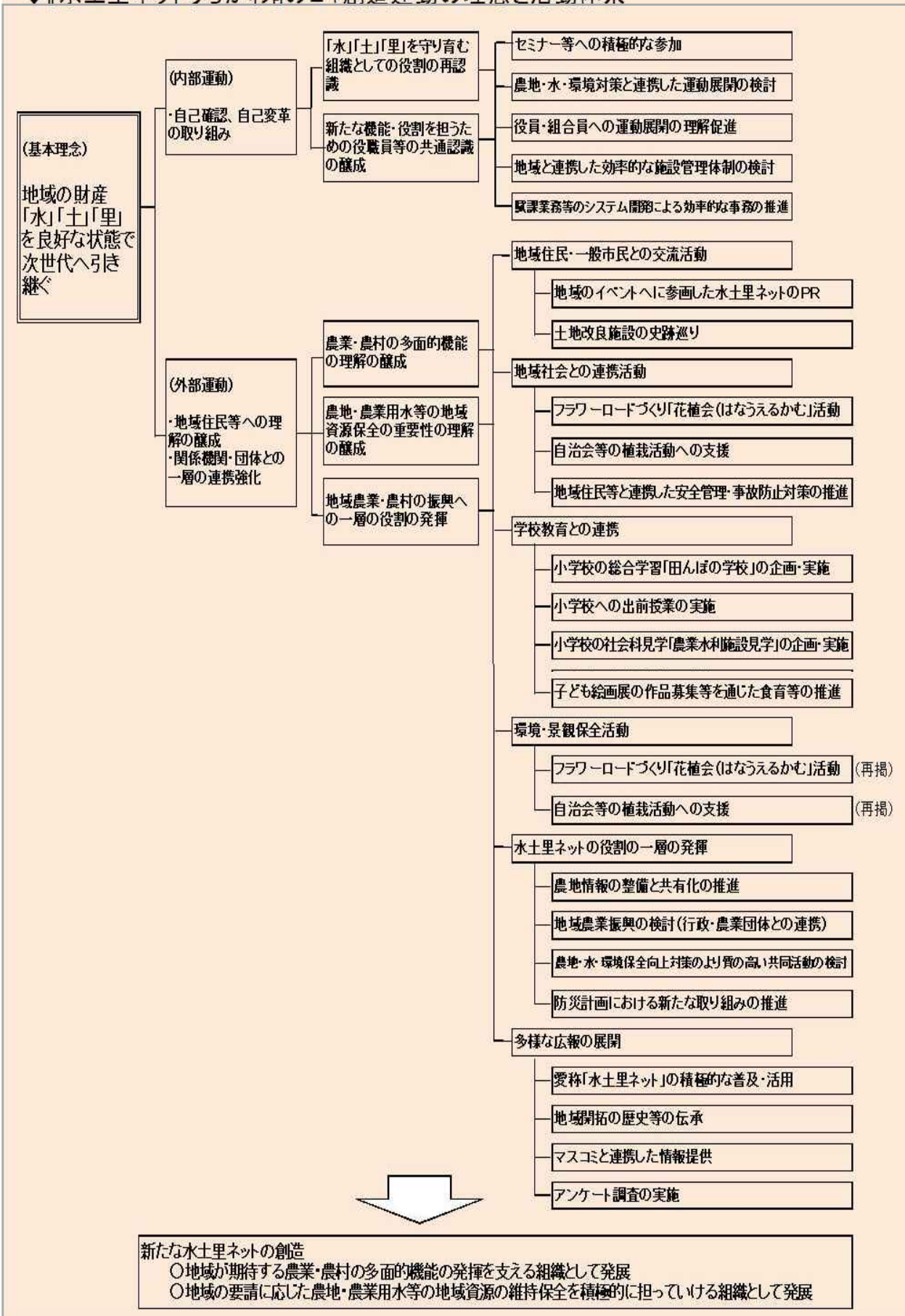


小学校の「田んぼの学校」は、町教育委員会の食育教育の一環にも位置づけられてる

「田んぼの学校」を食育教育の一環として位置づけていただいております、継続的な取り組みに向けて栄養教諭の派遣などの支援を得ている。

農村環境の保全や景観の創造に向けては、水土里ネットと地域の花の植栽グループ「花植会(はなうえるかむ)」がフラワーロードづくりと管理を継続的に行ってきたが、平成19年からは農地・水・環境保全向上対策の活動組織「姉富東ふるさと守り隊」とも連携して行われることとなり、計画的な取り組みが図られている。

◆『水土里ネットうらかわ』の21創造運動の理念と活動体系



(再掲)とは、他の活動の項目としてすでに掲載されている。

## 2 1 創造運動関連活動に対し表彰を受賞

**フラワーロードづくり「花植会(はなうえるかむ)活動」** (活動内容は別掲)

**「わが村は美しく - 北海道」運動 第3回コンクール(平成18年度)**

**農村景観部門 審査員特別賞**

美しい地域づくりを始めようと、「水土里ネットうらかわ」が事務局となって平成14年から進めているフラワーロードづくり「花植会(はなうえるかむ)活動」がスタート。以来、地域ぐるみで、道路脇を流れる用水路沿いに花を植栽し、フラワーロードづくりを進めており、緑の牧場とピンクや黄、青などの花とのコントラストは見事で、来町者を和ませている。

素晴らしい自然に溶け込んだ牧歌的な景観を守るため、農家自らの農機具で土地を整備し、適期に草取りなどの管理をしており、この活動が契機となって、地域ぐるみで環境整備の機運が高まり、地域の「花いっぱい運動」が盛んになったことが評価され、「わが村は美しく - 北海道」運動第3回コンクールにおける全道103市町村の170団体、217件の応募の中から、「農村景観部門」で特別賞を受賞した。

また、平成19年には、浦河町の地域環境美化推進活動の一環で行っている「花いっぱい」コンクールで、町長賞「審査会特別賞」も受賞している。



「花植会」が農村景観部門特別賞を



用水路敷地がフラワーロードへと変わる



ヨーロッパ的な美しい農村景観を醸し出している



JR 北海道の情報誌でも紹介されている。

The collage shows several pages from the JR Hokkaido magazine. The top right page features a large headline 'わが村は美しく' (Our Village is Beautiful) and a sub-headline '浦河町編 vol.15 花植会 (はなうえるかむ)'. Below this, there is a '審査員特別賞' (Special Award) badge. The middle section contains several photographs of the flower-lined roads and people participating in the activity. Text on the pages describes the project as a '牧歌的なたずまいの馬産地に似合いの美しい花の道' (A beautiful flower road suitable for a pastoral horse-raising area). The bottom section includes more text and a large photograph of a road lined with purple flowers.

## 荻伏小学校の総合学習「田んぼの学校」 (活動内容は別掲)

### 「わが村は美しく - 北海道」運動 第4回コンクール(平成20年度)

#### 人の交流部門 銀賞

平成14年に「水土里ネットうらかわ」が浦河町立荻伏小学校に「田んぼの学校」の企画を提案し、同年から同校5年生の総合学習のカリキュラムとして田植えや稲刈りなどの体験学習がスタート。その後も5年生の学習メニューとして水土里ネットの全面協力で毎年実施しており、これらの体験を通じて地域の人とのふれあいや食の大切さなどを学んでいる。

そのほかの学年でも福祉学習などを進めており、全学年で「地域」「人」「自然」との共生を目指した活動を年間を通して実施しており、これらの取り組みが評価され、「わが村は美しく - 北海道」運動第4回コンクール」における全道100市町村の169団体、229件の応募の中から、「人の交流部門」で銀賞を受賞した。



荻伏小学校の佐藤校長に、「人の交流部門」銀賞が贈られた



農家が先生となって、米がどのように生育していくのかなどを学習



生き生きとした笑顔で、楽しく農業体験が行われている

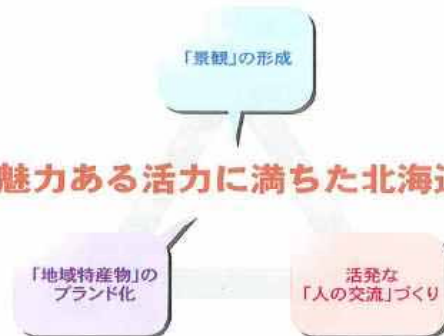
## 「わが村は美しく - 北海道」運動とは

参加しよう！

広げよう！

そしていいもの伝えよう！

### 魅力ある活力に満ちた北海道



#### 参加しよう—中心となるのは、地域に住む人々

「わが村は美しく—北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするためにスタートしました。この運動の中心となるのは、地域に住むみなさまです。それぞれの地域に大切なもの、「地域の資源」をみつけましょう。北海道の豊かな未来は「わが村」の小さな取り組みから始まります。

#### 広げよう—活動の輪を大きく、自由に

地域の個性が競い合い、高め合い、響き合うために、「わが村は美しく—北海道」運動はコンクールを開催いたします。地域で活躍するグループの方々にご応募いただき、優れた取り組みを表彰します。また、コンクールを通じて地域のさまざまな取り組みを広くピーアールします。

#### 伝えよう—北海道の「いいもの」を、もっと外へ

「わが村は美しく—北海道」運動は、[景観][地域特産物][人の交流]を3つの大きな柱として展開します。この運動を通じて、北海道にあるたくさんの「いいもの」をできるだけ多くの人に伝えます。そして、世界に誇ることのできる、私たちの豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことをめざします。

## (1) 内部運動

### 活動名： 「水土里ネットセミナー」や「ふるさと水と土指導員研修会」等への参加

開始時期：平成14年度より取り組む

活動経費： 100千円

：内訳 自主財源 年間100千円

#### 活動内容

水土里ネット北海道が主催する21創造運動等をテーマにした「水土里ネットセミナー」に積極的に参加し、先進地事例の取り組みや水土里ネットが求められている新たな役割等の提言を受けて、運動の取組意欲の向上と意識改革を図っている。

また、当土地改良区の職員が北海道から「ふるさと水と土指導員」に委嘱されており、道並びに全国段階での研修会に積極的に参加し、地域保全、地域活性化の手法等について研鑽を図っている。

さらには、平成20年度に札幌市で開催された疏水サミットにも参加し、疏水を核とした地域づくりなどについて研鑽した。

#### これまでの成果

セミナー等での有識者からの提言や事例発表などを通じて、21創造運動を通じた水土里ネットの地域との関わりの重要性を再認識するとともに、先進地事例等を参考に活動のステップアップを図っている。

#### 今後の計画、見通し

継続的な活動、一步踏み出した活動に向けて、学識経験者からの提言等を参考に今後の効果的な活動の検討を進めるとともに、後継者の育成のためにも、若手役員・職員を含めてこれらのセミナー等に積極的に参加していく。



平成21年11月11日に開催された水土里ネットセミナー。水土里ネットの新たな役割や多様な地域特性を活かしたふるさとづくりなどを研鑽した



毎年開かれる「ふるさと水と土指導員研修会」。水土里ネットの職員も道から指導員に委嘱されており、研鑽を図っている

#### (参考)

平成21年度「水土里ネットセミナー」における21創造運動関連の講演

テーマ：「水」「土」「里」を次代へ引き継ごう！」

内容：農地・水・環境保全向上対策と水土里ネットの関わりや多様な地域性を活かした地域づくりなど

平成21年度北海道ふるさと水と土指導員研修会

テーマ：「集落連携のきっかけをつくる方法」など

内容：全国及び道内のふるさと水と土保全の先進事例  
地域活動での課題・問題点などの意見交換 など

平成20年度「疏水サミット」における21創造運動関連のフォーラム

テーマ：「水土が里をつくり 里が水土をまもる」

内容：疏水の保全活動や疏水を核とした地域づくりなど

## 活動名： 農地・水・環境保全向上対策と連携した運動展開の検討

開始時期：平成18年度より取り組む

活動経費： - 千円

活動内容

平成18年度にスタートした農地・水・環境保全向上対策の実験事業において、これまで21創造運動を積極的に行ってきたことを踏まえ、理事会、総代会でモデル地区の採択を協議し、土地改良区が主体となって町、JAをはじめ関係団体と効果の高い活動内容、推進体制の検討を行った。

19年度からは、同対策が本格実施され、土地改良区が事務局となって活動組織を立ち上げるとともに、毎年、理事会等で、土地改良区と農地・水・環境保全向上対策の活動組織の緊密な連携による効果の高い活動の取り組み等について協議を行っている。

これまでの成果（選考基準4 - ~ のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。）

水土里ネットの支部組織（水利組合）の地域を農地・水・環境保全向上対策の地区として設定しており、その活動組織の代表は、支部長でもある水土里ネット副理事長が務めていることから、理事会等でも活動状況について積極的に意見交換を行っている。また、水土里ネットと自治会等の意思の疎通が円滑に進んでおり、21創造運動の活動の幅が広がっている。

今後の計画、見通し  
浦河町の農業農村づくりを地域と一体となって築くためにも、関係機関が連携して農地・水・向上対策事業を推進し、とりわけ水土里ネットが中心となって活動組織を牽引する必要があることから、今後も、水土里ネットと農地・水・環境保全向上対策の活動組織の緊密な連携による効果の高い活動の取り組み等について協議を行っていく。



水土里ネットの総代会で農地・水・環境保全向上対策の活動組織との連携についても協議

## 活動名： 役員・組合員への運動展開の理解促進

開始時期：平成14年度より取り組む

活動経費： - 千円

活動内容

平成13年度からの21創造運動の呼びかけを契機に、理事会や役員で構成する総務委員会や工事委員会で、改めて地域農業の現状・課題などを踏まえた土地改良区の役割を再認識するとともに、地域の要請に対応し、地域から期待される新たな役割・機能を担っていくための取り組みなどについて検討を進めた。

組合員はもとより地域住民、町行政、関係農業団体等の土地改良区に対する理解促進を図り、これまでの水管理を主体とした土地改良区から、農地も含めた地域資源の保全管理を担う土地改良区として前進することをめざして、定期的に



水土里ネットの支部総会等で、組合員に対し創造運動の理解促進を図っている



開催される水土里ネットの支部総会（水利組合総会）等において、それぞれの地域の役員がリーダーとなって組合員に対し運動促進への理解と支援・協力を求めている。

#### これまでの成果

特に、当地域では昭和40年代から稲作から軽種馬（サラブレッド）生産へ切り替える組合員が増えることによって転作が進み、その一方で、農業水利施設の将来に向けた維持管理に対する意識が徐々に希薄になってきた。

しかし、軽種馬生産も厳しい状況になってきた近年では、多様な農業形態が進展し、農地・水・環境保全向上対策のスタートも相まって、農地や農業用水など地域の資源を地域自らが保全していこうという機運が高まっており、創造運動に対する組合員の協力も増加傾向にある。

#### 今後の計画、見通し

役員は、水土里ネットの役割を改めて認識するとともに、組合員から要望の多い農地の整備に関する補助事業の活用などについて、総務・工事委員会や総代会・理事会で十分な協議を行い、地域の合意形成、円滑な事業推進を図っていく。

また、水土里ネットが地域の農地や農業用水などの資源を保全整備していく中心的な役割を担う組織であることを自覚し、水土里ネット各支部総会や各地域の自治会総会で、広く組合員等に対し農業生産の基盤である土地改良の大切さ、水土里ネットの運営や運動について理解と協力を求めていく。

### 活動名： 地域と連携した効率的な施設管理体制の検討

開始時期：平成18年度より取り組む

活動経費： - 千円

#### 活動内容

農地・水・環境保全向上対策の実験事業モデル地区に採択されたことを契機に、活動組織等との連携のもとに農業水利施設の保全管理を進めていこうと、水土里ネットの工事委員会や支部（水利組合）が中心となって地区全域の農業水利施設の管理状況や破損箇所の点検等を定期的に行い、維持管理体制や、補修工法等について協議を行っている。



工事委員会等が中心となって、農業水利施設の定期的な点検等を行っているおり、農地・水・環境保全向上対策の活動組織や地域住民等の一層の連携による管理体制の構築を検討している

#### これまでの成果

昭和40年代以降に水田転作が進み、特に長年通水されていない用水路では破損が多く見受けられているが、簡易な補修で対応できる箇所については、農地・水・環境保全向上対策の活動組織と連携を図りながら保全整備を行っている。

#### 今後の計画、見通し

水土里ネットの支部（水利組合）役員が地域内の農業水利施設等を定期的にくまめに点検し、農地・水・環境保全向上対策を進めている地域では、活動組織との一層の連携により管理体制を強化し、計画的な施設の保全整備に努めていく。

一方で、農地・水・環境保全向上対策のエリア以外の地域においては、組合員の高齢化等による施

設の維持管理体制の脆弱化が一層深刻になってくることから、非農業者を含めた地域住民の積極的な参画を呼びかけて、地域全体で保全管理を行っていくという機運を盛り上げながら効率的な管理体制の構築を目指していく。

**活動名： 賦課及び会計業務の独自システム開発による効率的な事務の推進**

開始時期：昭和63年から取り組む

活動経費： 5,560千円

：内訳 自主財源 5,560千円

**活動内容**

当水土里ネットに合った独自のシステム開発を行い、受益地区の農地1筆毎の管理を行いながら土地原簿の作成を行い、併せて賦課金調定から通知書の印刷までの一連の作業を処理している。

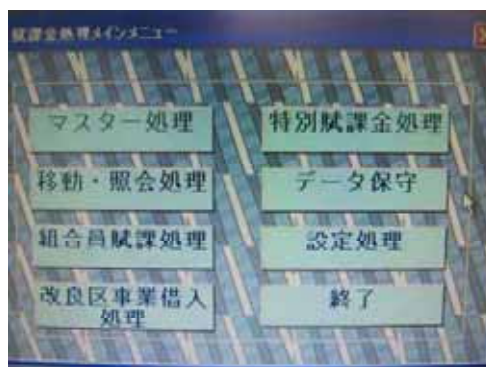
また、会計処理についても、各帳簿が連動して処理を行い、当水土里ネットの運営合理化と事務の正確かつ迅速化を図っている。

**これまでの成果**

賦課金及び会計の処理が迅速となり、従来の事務処理に要する時間が短縮となり、人件費の削減などの運営の合理化が図られている。

**今後の計画、見通し**

今後も、水土里ネットの運営合理化と事務の正確化・迅速化のため、賦課金及び会計処理の電算化を継続し、当水土里ネットの運営実態にあったよりバージョンアップしたシステムの構築も進めていく。



## (2) 外部運動

### 活動名： 地域イベント「柏陽館まつり」への参加

開始時期：平成17年から取り組む

#### 活動内容

地元自治会が中心となって「柏陽館まつり実行委員会」が主催する産業まつりに積極的に参加し、農業・農村の多面的機能や農業水利施設、水土里ネットの役割、町内3校の米づくり体験学習の様子、農地・水・環境保全向上対策の活動について、パネル展示やパンフレット等を配布して啓発している。

また、地元農産物のPRやアンケート調査を実施。特に、5年間継続しているアンケート調査の結果（別掲）が示すように、年々、水土里ネットの認知度が上がっており、活動の成果が徐々に現れている。

水土里ネットの役割： 主催、共催、協力、その他

#### 連携する団体

団体名：浦河町、荻伏地区自治会連合会、北海道日高振興局、水土里ネット北海道

#### 連携に当たり工夫した点

浦河町や北海道日高振興局等からは水土里ネットへの活動に理解をいただき、特に、北海道日高振興局、道土地連とは事前打合せを行い、準備から実施まで協力を得ている。

活動経費： 400千円  
 ：内訳 補助金 200千円（事業名：水土保全強化対策事業）  
 自主財源 200千円

#### これまでの成果

地域のイベントではアンケート調査も実施しており、水土里ネットの認知度が高まっている。

#### 年度別参加者内訳

年度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）						イベント等の開催数	
	役員	職員	組合員	行政	JA	その他	計	来場者数	学生等						計
									小	中	教師	PTA等	小計		
19	3	4	4	15			24	543						543	1日
20	3	4	2	12			21	451						451	1日
21	3	4	2	8			17	689						689	1日

来場者数はアンケート回答者数

#### 今後の計画、見通し

地域住民等からも好評を得ていることから、今後とも水土里ネットの啓発普及、また地域振興のために継続的に行っていく。



多くの来場者で賑わった水土里ネットのブース。農業・農村の多面的機能や水土里ネットの役割などをPRした



アンケート調査も毎年実施している

**活動名： 土地改良史跡めぐり**

開始時期：平成17年から取り  
組む

**活動内容**

当地域において歴史的・社会的重要な土地改良施設について、その重要性を理解してもらうための見学会として「柏陽館まつり」会場の水土里ネットうらかわコーナーで地域の歴史展を開催している。

また、「元浦川頭首工」を第2会場として、明治初期に入植した「赤心社」の歴史的建造物の農業用取水門や頭首工を見学してもらい、地域住民に浦河町の農業の歴史や重要性を理解してもらう。



平成21年9月27日に開かれた「柏陽館まつり」で実施した、うらかわの農業歴史展



第2会場の「元浦川頭首工」で歴史的建造物の頭首工等の見学会を実施



頭首工で捕獲したサケとのふれあい。子どもたちの人気を集めた

水土里ネットの役割： 主催、 共催、 協力、 その他  
連携する団体

団体名：浦河町教育委員会、浦河町郷土博物館、赤心社、北海道日高振興局、水土里ネット北海道

**連携に当たり工夫した点**

パネル展では、浦河町教育委員会からの支援・協力のもとに、浦河町内の明治から昭和までの歴史的な貴重な写真を多く展示することができた。また、赤心社から開拓当時の多くの資料の提供を受け、充実した内容の見学会となった。

活動経費： 200 千円  
：内訳 補助金 100 千円（事業名：水土保全強化対策事業）  
自主財源 100 千円

**これまでの成果**

浦河町の農業の歴史や、土地改良施設の役割などの理解が深まっており、水土里ネットうらかわの認知度も高まっている。

**年度別参加者内訳**

年度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）						イベント等の開催数	
	役員	職員	組合員	行政	JA	その他	計	来場者数	学生等						計
									小	中	教師	PTA等	小計		
19	3	4	4	15			24	230						230	1日
20	3	4	2	12			21	200						200	1日
21	3	4	2	8			17	240						240	1日

**今後の計画、見通し**

地域住民等からも好評を得ていることから、今後とも水土里ネットの啓発普及、また地域振興のために継続的に行っていく。

## 活動名： フラワーロードづくり「花植会（はなうえるかむ）」活動

開始時期：平成14年から取り組む

### 活動内容

平成14年に地域の幹線用水路が改修されたのを契機に、周辺に花を植栽し美しい農村景観づくりをはじめようと、土地改良区が事務局となって「花植会（はなうえるかむ）」を結成。以来、地域ぐるみで、道路脇を流れる用水路沿いに花を植栽し、フラワーロードづくりを進めている。

組合員や地域住民のボランティアなど多様な参画を得て、幅3m、延長800mの敷地に、マリーゴールド、ルピナスやデルフィニューム、ポピー、コスモスなど、春から秋まで楽しめるように植栽を行い、特に6月から9月にはそれぞれの花が満開の季節となり、緑の牧場とピンクや黄、青などの花とのコントラストは見事で、来町者を和ませている。

素晴らしい自然に溶け込んだ牧歌的な景観を守るため、農家自らの農機具で土地を整備し、適期に草取りなどの管理を行っている。



平成18年度「わが村は美しく - 北海道」運動のコンクールで、景観部門審査員特別賞を受賞した



春には農家自らのトラクターで土地を整備し、苗を移植していく



開花前の除草作業。農業者をはじめ地域住民のボランティアも参加



開花後も美しい景観を維持するため、定期的に草刈り清掃を実施

水土里ネットの役割： 主催、 共催、 協力、 その他  
連携する団体

団体名：花の植栽グループ「花植会」

農地・水・環境保全向上対策の活動組織「姉富東ふるさと守り隊」

連携に当たり工夫した点

景観を維持するためには、定期的な草取りなど維持管理に大変な労力を必要とすることから、「花植会」のメンバーに大きな負担がかからないよう、身の丈にあった適正な維持管理が可能な規模で、フラワーロードづくりを進めている。

また、会の代表は農家の奥さんが毎年交代で務めており、1人に負担がかからないようにしている。

活動経費： 500千円  
：内訳 補助金 500千円（18年度から農地・水・環境保全向上対策）  
17年度までは自主財源

これまでの成果

この活動は平成14年から始めており、今年で9年目を迎えているが、徐々に協力していただく参加者も増え、息の長い活動となっている。特に、これまでの活動は主に奥さんが主役となっていたが、活動の節目には交流会も行い多くの参加も呼びかけていることから、最近では夫婦で参加も増えてきている。

平成18年には、北海道開発局等が主催する「わが村は美しく - 北海道」運動の優秀な活動を広く情報発信する優良活動コンクールにおいて、全道103市町村の170団体、217件の応募の中から、「花植会」が農村景観部門特別賞を受賞した。

さらに、平成19年には、浦河町の地域環境美化推進活動の一環で行っている「花いっぱい」コンクールで、町長賞「審査会特別賞」も受賞している。

#### 年度別参加者内訳

年度	外部運動に係わったスタッフの数(延べ数)							外部運動への参加者の数(延べ数)						植栽、草刈り等の回数		
	役員	職員	組員	行政	JA	その他	計	組員	自治会等	学生等					計	
										小	中	教師	PTA等			小計
19	4	9	14			62	89		32						32	17
20	8	9	16			84	117	5	38						43	26
21	8	6	32			120	166	14	9						23	39

#### 今後の計画、見通し

花植会の活動も9年目を迎え、新聞等によってフラワーロードの景観が知られるようになり、ルピナス等の花の時期には町内外から人が訪れるようになった。

また、農村地域の住民が景観を意識するようになり、住宅周辺への花の植栽はもとより、地域の道路や水路の草刈りにも取り組むようになった。

これからも、フラワーロードがけん引役となって農村地域を花で彩なし、牧歌的な牧場風景と調和した景観を創出し、地域の観光振興と基幹産業である農産物の販売向上につながる、美しい豊かな農村になることを目標に、活動を継続していくこととしている。



定期的に行う草取り・清掃。まずはスケジュール、役割分担を打ち合わせ



花植会のメンバー



作業の後は焼き肉パーティー。地域の交流も図られている



「わが村は美しく - 北海道」運動のセミナーで、フラワーロードづくりの取り組みを、事務局の水土里ネットの職員が紹介した



NPO法人「わが村は美しく - 北海道」ネットワークも視察に訪れてた

## 活動名：自治会等の植栽活動への支援活動

開始時期：平成15年から取り組む

### 活動内容

「花植会（はなうえるかむ）」活動を契機に、地域ぐるみで環境整備の機運が高まり、営農している牧場周辺を美しく整えることで地域の観光振興や軽種馬の販売向上につなげようと、浦河町の推進・支援も相まって、それぞれの自治会で「花いっぱい運動」が盛んになった。

「花植会」のフラワーロードを視察に訪れる町内外の自治会も多く、春から秋までの期間、季節毎に異なる花が楽しめる花の種類や草取りなどの維持管理等について指導・助言を行っている。

水土里ネットの役割： 主催、共催、協力  
その他

### 連携する団体

団体名：町内外の各自治会

### 連携に当たり工夫した点

景観を維持するためには、定期的な草取りなど維持管理に大変な労力を必要とすることから、身の丈にあった適正な維持管理が可能な規模での花壇等の整備について助言を行っている。

活動経費： - 千円

### これまでの成果

浦河町が主催する「花いっぱいコンクール」に応募する個人や自治会が増え、地域ぐるみでの美しい景観づくりの機運が年々高まっている。

### 今後の計画、見通し

より多くの自治会等で美しい景観づくりの取り組みが始まるよう、フラワーロードのPRを行うとともに、必要に応じて助言を行っていきたい。



21年7月3日、日高町の自治会がフラワーロードの視察に訪れ、花の植え方などを学んだほか、地域の協力体制など意見を交換した



土地改良区が事務局となって「花植会」が進めているフラワーロードに刺激されて、それぞれの地域で花壇づくりなど美しい景観づくりの取り組みが始まっている

## 活動名： 地域住民等と連携した安全管理・事故防止対策の推進

開始時期：従来から取り組む（直営施工による安全フェンスの実施は21年）

### 活動内容

用水路等への転落防止にあたっては、従来より保育園、幼稚園、小学校等に対し事故防止啓発のポスターやノートを配布するとともに、特に、住宅地を流れる用水路には補助事業を活用しながら安全フェンスの設置に努めてきた。

このような中、平成21年5月、幹線用水路沿いに住宅があり、幼児2名が同居する住民から、子どもの転落防止のための防護柵の設置について、水土里ネットに対し申し入れがあり、早急な対応が必要なことから、組合員、地域住民に協力を依頼して直営で安全フェンスの施工を実施。地域農業者に呼びかけて使わなくなった牧柵（防腐剤注入の木製）を集め、組合員のトラクターを活用しながら迅速な設置工事を行った。

これを契機に、役員会等において、水土里ネット自らができることは可能な限り対応していこうという意識が高まることとなった。

また、小学校の「田んぼの学校」での田植え体験の時などでも、児童へ水路転落防止について、職員が直接喚起している。

水土里ネットの役割： 主催、 共催、 協力  
その他

### 連携する団体

団体名：役員、組合員、地域住民

### 連携に当たり工夫した点

迅速な対応が必要なことから、地域の農家及び地域住民に協力を求めた。

活動経費： 120千円  
：内訳 自主財源 120千円  
外注した場合 300千円程度

### これまでの成果

事故防止の啓発及び安全管理対策の迅速な対応徹底により、事故の未然防止につながっている。

### 今後の計画、見通し

今後とも地域と連携して、一層の安全管理対策の徹底、事故の未然防止に万全を尽くすこととしている。



組合員、地域住民等の協力を得て実施した、安全フェンスの直営施工



「田んぼの学校」で、児童への水路事故防止を呼びかけ



## 活動名： 小学校の総合学習「田んぼの学校」の企画・実施

開始時期：平成14年から取り組む

### 活動内容

浦河町立荻伏小学校、浦河東部小学校、野深小学校の3校の5年生の総合学習の取り組みで、水土里ネットが小学校に「田んぼの学校」の企画を提案。田植えから生育観察、稲刈り体験、収穫祭まで全面的に協力している。町やJA、組合員の協力も得て、体験ほ場は、当土地改良区の職員や組合員が提供。「田んぼの学校」を通じて、米作りに欠かせない農地や農業用水の重要性と、これらを管理している水土里ネットの役割なども紹介している。

さらに、収穫祭では、浦河町の栄養教諭の協力も得て食育活動も行っている。



21年5月28日に実施した荻伏小学校の田植え体験。地域の農家が指導にあたった



21年8月26日に実施した浦河東部小学校の生育観察。地域の農家が開花の状況や水管理の重要性などを紹介した



21年10月6日に実施した荻伏小学校の稲刈り体験。鎌で丁寧に刈り取った



21年10月30日に実施した野深小学校の脱穀精米体験。子どもたちは体験のほか熱心にメモをとっていた



21年11月20日に荻伏小学校で行われた収穫祭。栄養教諭の指導の下、児童自らがカレーライスをつくり、水土里ネット関係者も招待された



荻伏小学校の収穫祭で、「田んぼの学校」の取り組みなどがまとめられた、児童手作りの冊子も配られた

水土里ネットの役割： 主催、 共催、 協力、 その他

### 連携する団体

団体名：浦河町立荻伏小学校、浦河東部小学校、野深小学校、浦河町、JA、浦河町教育委員会、北海道日高振興局  
農地・水・環境保全向上対策の活動組織「姉富東ふるさと守り隊」

### 連携に当たり工夫した点

3つの小学校は、毎年5年生を対象に田んぼの学校を行っており、子どももPTAの父兄も新鮮な感覚で米づくり体験が行われている。「田んぼの学校」は3校とも総合学習の中に位置付けられており、その年の担任の教師が水土里ネットの職員と相談しながら学習カリキュラムを組んでいる。

協力を得ている農家組合員は、作業道具の準備も含めて大変好意的な対応で子どもたちの指導にあたっていただいております。農家の農作業の都合なども優先して日程等を調整している。

活動経費： 336千円  
：内訳 補助金 156千円（町教育委員会）  
補助金 180千円（農地・水・環境保全向上対策の活動組織）

### これまでの成果

田んぼの学校を通じて、児童やPTA、教師の、地域農業や農地・農業用水等の資源保全の重要性、水土里ネットの役割などの理解が深まったと考えている。

特に、水土里ネットが主催する「田んぼの学校」と浦河町教育委員会が進める食育活動と連

携していることにより、食料・農業に関する理解促進に一層効果の高い活動となっており、浦河町教育委員会の「食に関する指導」の手引きでも優良実践事例として紹介されているほか、北海道教育委員会が発行する「学校における食育実践事例集」にも掲載されている。

また、平成20年には、北海道開発局等が主催する「わが村は美しく - 北海道」運動の優秀な活動を広く情報発信する優良活動コンクールにおいて、全道100市町村の169団体、229件の応募の中から、浦河町立荻伏小学校が、総合学習（1～3年生の福祉施設訪問、4年生の「アイマスク体験」等の福祉学習、5年生の田んぼの学校、6年生の「荻小劇場」上映）を通じた「人」「地域」とのかかわりの取り組みに対し、人の交流部門銀賞が贈られた。

#### 年度別参加者内訳

年度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）							田んぼの学校の開校回数	
	役員	職員	組員	行政	JA	その他	計	組員	自治会等	学生等						計
										小	中	教師	PTA等	小計		
19	9	25	17	72		18	141			166		43	7	216	216	13
20	12	25	17	77	1	16	148	3	2	224		42	7	273	278	13
21	12	24	16	102	1	15	172	2	1	194		39	11	244	247	12

#### 今後の計画、見通し

「田んぼの学校」も9年目を迎え、小学校5年生の大切な授業として位置付けられ、また学校の大きな行事ともなっている。小学校の校長からは「低学年の子どもたちは5年生になるのを楽しみにしており、米づくりは憧れの的となっている」と言っている。泥だらけになり、水にぬれ、楽しみながらも、時には労働の大変さにも触れて、農業や農村に親しんでいる子どもたちの姿を毎年見ており、これからも小学校と連携しながら活動していくこととしている。

一方で、来年度からは小学校の総合学習の時間が短縮されることから、「田んぼの学校」のカリキュラムについて学校と協議を行ったが、来年度以降もほぼ同様の内容で、是非実施したいとのことであった。小学校としても、米づくりを通して農や食の大切さにふれることは勿論のこと、地域の人達の協力でなりたっている活動を大切にしたいとのことである。



子どもたちが泥だらけになって、生き生きとした笑顔で田植えや稲刈りを行っている姿が、活動の励みとなっている

## 活動名： 小学校への出前授業の実施

開始時期：平成21年から取り組む

活動内容

「田んぼの学校」を通じて、小学校と土地改良区の有機的な連携が図られ、平成21年には浦河東部小学校から出前授業の依頼があり、水土里ネット職員が小学校に出向き、農業水利施設の役割などを紹介した。

この出前授業は、社会科見学の一環の頭首工見学にあたって、頭首工について理解を深めることをねらいとし、事前学習として行った。

水土里ネットの役割： 主催、共催、協力、その他



出前授業で子どもたちに農業用水の役割などの理解促進を図っている

連携する団体

団体名：浦河東部小学校

連携に当たり工夫した点

「田んぼの学校」を踏まえて、教師と打ち合わせを行いながら、子どもたちが楽しく、興味を引くような資料等を作成した。

活動経費： 1千円

：内訳 自主財源 1千円

これまでの成果

教育の支援を行っていくことにより、これまで以上に学校との多様かつ有機的な連携が構築され、子どもたちの農業に対する一層の理解が図られてきたと感じている。

年度別参加者内訳

年 度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）						出 前 授 業 の 回 数	
	役員	職員	組合員	行政	JA	その 他	計	組合員 等	自治会 等	学生等					計
										小	中	教師	PTA等		
19															
20															
21		1					1			14		1		15	15

今後の計画、見通し

今回初めて実施した出前授業では、子どもたちが農業用施設に関して興味を持っていることが感じられた。今後も学校から依頼があった場合は、水土里ネットの役職員が積極的に出向き、食と農の大切さや農地・農業用水等の資源保全の重要性などを伝えていきたい。

なお、今回の授業は「頭首工の役割について」であったが、稲作などの農業や地域の歴史などに関する出前授業の依頼があった場合は、専門知識を持った組合員や地域住民の協力も頂きながら積極的に活動していきたい。

## 活動名： 小学校の社会科見学「農業水利施設見学会」の企画・実施

開始時期：平成14年から取り組む

### 活動内容

浦河町立荻伏小学校、浦河東部小学校5年生の社会科見学に協力し、「田んぼの学校」と関連して「田んぼの水はどこからどのように流れてくるのか」をテーマに、児童らを姉富東頭首工や杵臼頭首工に案内し、水土里ネットが作成したパンフレットを配布して農業用水や農業水利施設、水土里ネットの役割などを紹介している。

水土里ネットの役割： 主催、 共催、 協力  
その他



21年5月28日に姉富東頭首工を見学する荻伏小学校の児童

### 連携する団体

団体名：浦河町立荻伏小学校、浦河東部小学校  
連携に当たり工夫した点

「田んぼの学校」のスケジュールと調整しながら、小学校とカリキュラムの打ち合わせを行い、事故防止など安全管理に努めた。

活動経費： 41千円  
：内訳 補助金 40千円  
(浦河町教育委員会)  
自主財源 1千円



水土里ネットの職員が頭首工の役割や田んぼの水がどのように流れていくのかを紹介した

### これまでの成果

農業用水の大切さの理解促進を図る一方で、子どもたちを水の事故から守るための水の恐ろしさについても、実際にゲートを操作しながら教えている。

教育の支援を行っていくことにより、これまで以上に学校との多様かつ有機的な連携が構築され、子どもたちの農業に対する一層の理解が図られてきたと感じている。

### 年度別参加者内訳

年 度	外部運動に係わったスタッフの数(延べ数)							外部運動への参加者の数(延べ数)						見学会 の回数		
	役員	職員	組員	行政	JA	その他	計	組員 等	自治会 等	学生等					計	
										小	中	教師	PTA等			小計
19	3	4	2	5			14			32		7		39	39	2
20	3	3	3	5			14			37		8		45	45	2
21	3	5	2	6			16			33		6		39	39	2

### 今後の計画、見通し

「田んぼの学校」と連動して「水のみち」をテーマとした施設見学会を行うことにより、子どもたちは農業水利施設や水土里ネットの役割を一体的に理解しているように思える。

今後とも、水土里ネット役職員や支部(水利組合)の施設管理担当者が講師として見学会を実施し、田植え体験や稲の生長観察会と併せて、学校と連携・調整を図りながら継続していきたい。

**活動名： 小学校と連携した「田んぼの生き物調査」の実施**

開始時期：平成15年から取り組む

**活動内容**

田んぼやその周辺、農業用水路・排水路の生息する生き物を調査し、これらを通じて自然環境の保全や生物多様性の取り組みなどの理解を得ようと、「田んぼの学校」の一環で「田んぼの生き物調査」を実施。平成15年から18年までは水土里ネットと荻伏小学校が連携して実施し、19年からは北海道日高振興局の協力も得ている。

子どもたちは、日頃触れることの少ない田んぼの生き物に接することで、歓声を上げたり、驚きや新たな発見に目を輝かせていた。

水土里ネットの役割： 主催、共催、協力  
その他

**連携する団体**

団体名：北海道日高振興局、浦河町立荻伏小学校、浦河町教育委員会

**連携に当たり工夫した点**

総合学習のカリキュラムの調整とバスの借上経費等の節減から、「田んぼの学校」で行っている「稲の生長観察会」に併せて「生き物調査」を実施している。

また、サデ網やタモ網による生き物採捕許可申請についても関係団体と打ち合わせを行っているほか、事故防止など安全管理などにも努めている。

活動経費： 20千円  
：内訳 補助金 20千円  
(浦河町教育委員会)

**これまでの成果**

子どもたちの生き物に対する興味や好奇心を通して、農村地域に親しむ心が養われているように感じる。また、普段見ることのできない魚やカニなどに触れて農村の多様性の理解が図られてきたと感じている。

**年度別参加者内訳**

年度	外部運動に係わったスタッフの数(延べ数)							外部運動への参加者の数(延べ数)							調査回数	
	役員	職員	組合員	行政	JA	その他	計	組合員等	学生等					計		
									小	中	教師	PTA等	小計			
19		3		5			8			15		5		20	20	1
20		1	1				2			18		2		20	20	1
21		3		7			10			19		2		21	21	1

**今後の計画、見通し**

今後とも小学校と調整し、「田んぼの学校」に無理のかからないカリキュラムで進めていきたいと考えている。



**活動名： 子ども絵画展の作品募集等を通じた小学校との交流活動**

開始時期：平成17年から取り組む

**活動内容**

全国水土里ネットと水土里ネット北海道が主催する「田んぼと水」子ども絵画展や、道農地・水・環境保全向上対策協議会が主催する「とんぼの未来・北の里づくり」絵画コンテスト等の作品募集を小学校に呼びかけ、学校や子どもたちとの交流促進を図っている。

毎年多くの作品を土地改良区を通じて応募しており、これまで優秀作品として多くの賞を受賞しているほか、作品展示会なども行っている。

水土里ネットの役割： 主催、共催、協力  
その他

**連携する団体**

団体名：荻伏小学校、浦河東部小学校  
野深小学校

**連携に当たり工夫した点**

「田んぼの学校」などを通じて、作品募集の呼びかけを行っている。

活動経費： 2千円  
：内訳 自主財源 2千円

**これまでの成果**

教育の支援を行っていくことにより、これまで以上に学校との多様かつ有機的な連携が構築され、子どもたちの農業に対する一層の理解が図られてきたと感じている。

**年度別参加者内訳**

年度	外部運動に係わったスタッフの数(延べ数)							外部運動への参加者の数(延べ数)						応募の 作品数		
	役員	職員	組員	行政	JA	その他	計	組員 等	自治会 等	学生等					計	
										小	中	教師	PTA 等			小計
19		2					2			31		2		33	31	
20		2					2			38		2		40	38	
21		2					2			34		2		36	34	

**今後の計画、見通し**

全土連等が主催する「田んぼと水」子ども絵画展と、道農地・水・環境保全向上対策協議会が主催する「とんぼの未来・北の里づくり」絵画コンテストがあるが、両方での作品募集では児童や学校に無理がかかるので、うまく調整しながら継続的に進めていきたいと考えている。



応募された絵画をイベント等で展示



「田んぼの学校」の生育観察と併せて、写生会も行われている



平成20年には、道農地・水・環境保全向上対策協議会主催の「写真・絵画コンテスト」で、浦河東部小学校5年生の児童が優秀賞に選ばれ、同協議会会長から表彰状が贈られた

## 活動名： 農地情報の整備と共有化の推進

開始時期：平成18年から取り組む

### 活動内容

浦河町と水土里ネットが共同でGIS（地理情報システム）の導入による農地情報システムの整備・構築を進めている。農地流動化（担い手への農地集積）や耕作状況の把握、生産調整の推進、土地改良事業等の計画樹立及び施設管理など、農業振興地域に係る農地管理の運用と効率化を図るため、農地有効利用の促進、地域担い手の育成・確保に向け、農地情報の整備を進めて情報の共有化や相互利用の推進を図っている。

水土里ネットの役割： 主催、共催、協力  
その他

### 連携する団体

団体名：浦河町・浦河町農業委員会

### 連携に当たり工夫した点

組合員からは、自己所有地の面積や形状などの情報が求められており、また、平成17年度から実施の農業農村整備事業を推進していく上でもGISは必要となっていた。

このため、浦河町農業委員会と相談したところ、農業委員会も同様のGISの必要性を持っていたために、町内コンサルタントにシステム作成を委託し、浦河町、浦河町農業委員会、水土里ネットがGISを共有している。浦河町が1年に1度、土地情報の更新を行い、農業委員会と水土里ネットが更新情報を得ている。

活動経費： 1,100 千円  
内訳： 補助金 0 千円  
自主財源 1,100 千円（各団体負担）

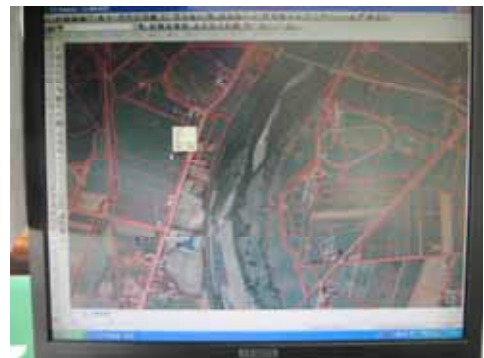
### これまでの成果

平成18年度からGISを実際に運用しており、組合員の要望にも即対応している。また、農業農村整備事業の実施や計画樹立にも、精度の高い情報を得ており、これからの農業・農村の振興を図るうえで重要なツールとなっている。

### 今後の計画、見通し

町内の土地情報変更による対応は、年に1度更新をしている。しかし、使用しているGISの写真は、平成4年に撮影した航空写真であるため、現状と変わっているところが多々あり、また、写真を拡大するとぼやけてしまうため、より精度の高い情報が得られない欠点がある。

このため、現在、道土連が中心となって進めている「水土里情報利活用促進事業」による水土里情報システムの導入を進めており、関係業務への一層の活用が期待されている。



## 活動名： 地域農業振興の検討（行政、農業団体との連携）

開始時期：平成12年から取り組む

### 活動内容

#### 浦河町水田農業推進協議会への参画（平成12年設立）

食料自給率の向上に向けた水田・畑の有効活用による麦、大豆、米粉用・飼料用米等の生産拡大の推進、地域における需要に応じた米の生産水田農業の構造改革の推進、水田を活用した作物の産地確立の推進などの協議を行っている。（構成団体：浦河町、水土里ネットうらかわ、JAひだか東、浦河町農業委員会、日高農業改良普及センター、浦河町産米改良協会、野菜振興会、花卉振興会、和牛改良組合、軽種馬振興会、日高地区農業共済組合）

#### 浦河町担い手育成総合支援協議会への参画（平成19年設立）

浦河町の基幹産業である軽種馬生産の低迷、農業従事者の減少・高齢化による地域農業の生産構造の脆弱化を回避するため、施設園芸や肉用牛生産の導入など複合経営に向けた技術・経営支援などに取り組むとともに、新規就農者の受け入れ体制の強化などについて協議を行っている。（構成団体：浦河町、水土里ネットうらかわ、JAひだか東、浦河町農業委員会、日高農業改良普及センター）

#### ひだか東地域軽種馬経営構造改革推進委員会への参画（平成17年設立）

軽種馬生産農家の経営安定と強い馬づくりのため、地域の生産者団体が一体となって担い手経営の組織化対策、経営構造の改善に必要な対策に取り組んでいる。（構成団体：浦河町、様似町、えりも町、水土里ネットうらかわ、水土里ネット様似、日高軽種馬農協、農業共済組合、関係農業委員会、関係JA、関係軽種馬生産振興会）

#### ひだか東地域軽種馬生産需給安定推進協議会への参画（平成17年設立）

軽種馬生産の廃業を条件として能力の低い繁殖牝馬の用途変更をした生産者に対し奨励金を交付し、需要の減少に対応した強い馬づくりの生産体制の構築を図っている。（構成団体：浦河町、様似町、えりも町、水土里ネットうらかわ、水土里ネット様似、日高軽種馬農協、農業共済組合、関係農業委員会、関係JA、関係軽種馬生産振興会）

水土里ネットの役割： 主催、共催、協力、その他

連携する団体

団体名：別掲

連携に当たり工夫した点

地域農業の振興発展に向け、行政をはじめ関係農業団体が連携して様々な課題解決等に取り組んでいる。

活動経費： - 千円

これまでの成果

水田転作における高収益作物の導入に向け、地域に適応したいちごの品種導入や作型確立への取り組み、また新規就農者に対する研修指導などを通して、地域農業の担い手育成の支援活動の推進が図られている。

また、地域農業の主体となっている軽種馬の安定生産に向けて、行政と関係農業団体等の連携して各種対策が図られている。

今後の計画、見通し

浦河町は軽種馬生産頭数が多く、名馬の優駿の故郷としてこれまで発展してきたが、日本の長引く不況等によって馬の売れ行きが低迷していることから、浦河の軽種馬経営構造の改革が進展し、肉用牛や施設園芸等への複合経営への転換が進んでいる。

このことから、行政・関係農業団体等が連携し、高収益作物の導入など複合経営に向けた新たな経営管理・生産技術の支援を行っていくとともに、軽種馬の安定生産にも取り組んでいくこととしている。

水土里ネットとしては、高収益作物の導入や軽種馬、肉牛生産に必要な良質な飼料作物の安定生産に向け、地域の要望に即した必要な土地改良事業を進めていくこととしている。



## 活動名： 農地・水・環境保全向上対策のより質の高い共同活動の検討

開始時期：平成18年から取り組む

### 活動内容

平成18年度にスタートした農地・水・環境保全向上対策の実験事業において、これまでの21創造運動の取組などが認められて、日高管内から唯一のモデル地区として当水土里ネットの地区が採択された。これを機に、3つの集落をまとめている水利組合の地区内にいて、それぞれの地区が単独で活動していたものを「姉富東ふるさと守り隊」という活動組織を立ち上げた。

構成員の活動については役割分担を行い、大排水路の草刈り作業は「排水路管理組合」、用水路の草刈りや補修作業は「水土里ネット支部」、フラワーロードの植栽活動は「花植会」、小学校との連携による「田んぼの学校」は荻伏小学校と水土里ネット、さらに地域住民の活動を取り入れるため、農道の草刈り作業を3つの自治会が担当した。

これにより、用水系統で結ばれていた大きな地域内のそれぞれの活動が、ひとつの活動組織のテーブルにのり、共通の目的に向かって大きく動き始めた。

このモデル地区の活動計画の検討会議や各組織間の連絡調整などは水土里ネットが中心として行い、同対策が本格実施された19年度からは、水土里ネットが事務局となって正式に活動組織を立ち上げ、毎年、理事会等で、水土里ネットと農地・水・環境保全向上対策の活動組織の緊密な連携による効果の高い活動の取り組み等について協議を行っている。

水土里ネットの役割： 主催、共催、協力  
その他

### 連携する団体

団体名：姉富東ふるさと守り隊

### 連携に当たり工夫した点

水土里ネット支部（水利組合）の地区を基本とした3つの集落を活動組織の地域として設定。そのことにより、水利組合の役員全員が活動組織の役員となり、そのほかに各自治会の会長や地区内の農業委員、排水組合の組合長も活動組織の役員として参画した。そして、水土里ネット水利組合長が活動組織の代表となった。年に数回、役員会を開催し、それぞれの組織が担当している役割の活動状況について報告している。

活動経費： - 千円

### これまでの成果

年に数回、役員会を開催し、それぞれの組織が担当している役割の活動状況について報告しており、その活動内容について立場の違う役員から意見を聞いて、客観的に活動を検証できるようにしている。

### 今後の計画、見通し

今後とも水土里ネットが事務局となって地域の連絡調整をしながら、活動目標に向かってまとめていく必要がある。そして、農村地域の資源を農家だけでなく非農家も含めた地域が一体になって守っていくため、自治会とも連携をとりながら、活動組織の役員会や総会において意見を出し合い、検討を重ねていくこととしている。



土地改良区が事務局となって保全計画などを協議する農地・水・環境保全向上対策の活動組織「姉



現地で、維持管理対策の手法、補修の工法等を検討



用水路も目地補修の効果等を検証

## 活動名： 地域防災計画における新たな取り組みの推進

開始時期：平成18年から取り組む

### 活動内容

平成18年7月に浦河町防災会議が開催され、指定地方公共機関として水土里ネットも会議に出席し、浦河町地域防災計画の見直しなどの計画案を審議した。水土里ネットの防災関係としての処理すべき事務又は業務は、「土地改良施設の防災対策に関すること、及び農業水利施設の災害応急対策及び災害復旧対策に関すること」であり、これらを再認識するとともに、農業用水の多面的機能発揮に向けて、農業用水の防火用水への取り組みについても検討を行っている。

水土里ネットの役割： 主催、 共催、 協力、 その他

### 連携する団体

団体名：浦河町

### 連携に当たり工夫した点

浦河町地域防災計画の見直しを契機に、水土里ネットの頭首工管理規程を再確認するとともに、水土里ネット地区内の防災について点検し、併せて組合員の意見を聞き取っている。

活動経費： - 千円

### これまでの成果

当町の農村地域の中央部は比較的大きな河川が流れているが、それ以外の地域は、周辺に一定の水量がある河川が少ないため、火災が発生した場合の水の確保が困難な状況となっている。

4月下旬から8月下旬までは通水期間であり、過去に発生した火災では用水路の水を緊急で使用して消火した事例もあったことから、農業用水の防火用水としての重要性も組合員から指摘され、用水を利用した防火水槽の設置についての要望も組合員から出されている。

### 今後の計画、見通し

当水土里ネットが管理している農業水利施設が、地域防災に役立つ多面的な機能を発揮できるように、特に防火用水としての地域での利用について、関係機関と協議を行っていく。

## 活動名：愛称「水土里ネット」の積極的な普及・活用

開始時期：平成14年から取り組む

### 活動内容

#### 印刷物等に使用

名刺、封筒、水土里ネットだより、ネームプレートなど、印刷物に広く使用している。

#### 体験水田への看板に使用

地元の荻伏小学校と連携して取り組んでいる「米作り体験水田」の案内板に使用している。

#### バッジ(胸章)の着用

役職員に胸章を配布し、特に、外出時は着用を義務づけている。

#### 啓発グッズ等の作成

のぼりやはっぴを作成し、イベント開催時に活用することにより広く一般参加者へPRを行っている。



水土里ネットの役割： 主催、 共催、 協力、 その他

連携する団体

団体名：

連携に当たり工夫した点

活動経費： - 千円

これまでの成果

積極的な愛称普及活動及びシンボルマークの活用により、地域において水土里ネットの愛称が認知されてきている。

今後の計画、見通し

今後とも一層の普及・活用に努めていくこととしている。

**活動名： マスコミと連携した情報提供**

開始時期：平成14年から取り組む

**活動内容**

水土里ネットの創造運動の活動や、土地改良事業の取組などを新聞社に積極的に情報発信し、広く活動をPRしている。平成21年度は、北海道新聞、日本農業新聞等に30回以上掲載され、小学校の「田んぼの学校」やフラワーロードの取組みなどの様子が紹介されている。

そのほか、NHK支局に水土里ネットと小学校が連携して行っている「田んぼの学校」について情報提供を行い、平成18年と20年には、荻伏小学校の「田んぼの学校」の取組みがNHKの取材を受け、18年は3回、20年は2回にわたり、テレビで放映された。

水土里ネットの役割： 主催、 共催、 協力、 その他

**連携する団体**

団体名：新聞各社、NHKなど

**連携に当たり工夫した点**

多くの人に水土里ネットの活動状況や農業農村整備事業を紹介するため、新聞社等にプレスリリースを行ってきており、また、NHK支局には食育と連携した「田んぼの学校」の取組みについて情報提供を行った結果、取材を受けることとなった。

活動経費： - 千円

**これまでの成果**

これまでに掲載された記事は過去5年間で約150回を超えており、水土里ネットや各種活動が広く情報発信されている。

**今後の計画、見通し**

今後とも、マスコミ等の連携を強化し、情報発信に努めていくこととしている。





フラワーロードで  
花の植え方学ぶ

日高町の自治会

【日高広域】日高管内浦河町土地改良区が事務局となり管理している浦河町のフラワーロードで3日、日高町厚賀の自治会「一政会」役員が花の植え方などを学んだ。写真。

一行は浜本雅洲会長ら7人。同自治会は今春、北海道開発局室蘭開発建設部から環境保全でルピナスの苗500本が贈られ、国道235号沿いの長さ200×300mに植え管理している。

浦河町のフラワーロード作りは7年目。土地改良区が、花の品種選びや植栽、除草など管理全般を担当している。一政会

は、国道沿いには美しく保つにはどうしたらいいかを学ぶため訪れた。同町のフラワーロード管理の先達格、伏地区の自治会関係者から「美しく保つには、地域にあった品種を選ぶ。まめな除草も大切」などのアドバイスを受けた。

稲刈りは初めて

野呂田支庁長も参加し  
浦河東部小農業体験学習

小学校(浦河町土地改良区)の進捗による農業体験学習で九月三日、

稲刈り



秋に感謝していた

浦河東部小(盛野)校長は、中村さんらから生徒の五年生児童十三人が市内村の農業、中村勇内さんの水田を訪れ、黄金色に実った稲の収穫に挑戦。なれない稲刈りのため、稲刈り体験した。日高支庁の野呂田歴史資料館も参加し、田舎で初めてという稲刈りの作業に汗をかいていた。

は初めて、まごころを運んでくれるのが夜遅くまで、食への感謝を受け、浦河町は同校と秋の小、野呂田農業体験学習を促している。浦河東部小は中村さんの指導のもと、九月下旬の稲刈りを行い、生青稈を育てての日の稲刈りを迎えた。

思春期といっしょに野呂田支庁長も稲刈り体験

農地・水・環境で  
大型カレンダー

日高管内浦河町の姉妹、富里、東米の3地区の住民でつくる「姉富東ふるとし守り隊」は、2010年度



浦河町の姉富東ふるとし守り隊

大型カレンダー

用的大型カレンダーを作った。写真。3地区は国の農地・水・環境保全向上対策事業の実施地区に指定されており、事業活動のPRなどが目的。カレンダーはA2判サイズ。事業の窓口役を務める浦河町土地改良区が提案し、実現した。同事業に基づき進められている花壇づくりに取り組む浦河町、米づくりの体験学習に取り組み小学生など、ローカル色豊かな写真12枚を添え、楽しい出来栄になった。2010年度をとり、1守り隊への参加住民らに年内に配布される。(日高広域)

収穫した稲を脱穀精米

5年生 米づくり農業体験学習

浦河町秋伏小(佐藤基)の五年生十八人は、十月三十日、米づくり農業体験学習の一環として、収穫した稲の「脱穀・精米」を富里の農業、高松一さん宅で行った。浦河町土地改良区連

この日、高松一さん宅を訪れた児童たちは、稲束を手分けして次々と脱穀機へ運び、高松さんと浦河町土地改良区や日高支庁の職員らに手伝ってもらいながら脱穀作業を体験した。



米を手にとる稲刈りの児童たち

脱穀作業が終わると、高松一さん宅の倉庫で脱穀機を使って稲から精米を取り除いて玄米に仕上げる工程を見学。次に稲米機を使って玄米からぬかを取り除き、白米が出てくる。児童たちは一喜一々に大きな歓声をあげ、さっそく米を手にとりて脱穀の喜びを味わった。精米された玄米は百五十六・三五に、二十日に同校で行われる収穫祭で高松一さんや手伝ってくれた職員を招待して試食する。

## 活動名： 地域開拓の歴史等の伝承

開始時期：平成14年から取り組む

### 活動内容

当町の米づくりは、明治15年に兵庫県などから移住した開拓会社「赤心社」の大規模な造田とかんがい施設の建設により本格化し、その後、土功組合が引き継ぎ、現在は水土里ネットが農地と農業水利施設を守っている。

これら地域の開拓の歴史を広く伝えようと、地域の産業祭り等で開拓当時の写真などのパネル展を行っているほか、歴史的建造物の農業用取水門や頭首工の見学を通して、地域住民に浦河町の農業の歴史や重要性についてのPR活動を行っている。

また、赤心社記念館（旧浦河町立郷土博物館）には開拓当時の貴重な資料等が保存されており、水土里ネットかも旧土功組合が実施したかんがい排水事業などの貴重な資料、写真等を提供し、地域開拓の歴史伝承を行っている。

水土里ネットの役割： 主催、共催、協力  
その他

### 連携する団体

団体名：浦河町、浦河町教育委員会

赤心社、北海道日高振興局、水土里ネット北海道

### 連携に当たり工夫した点

特に、歴史パネル展の実施に当たっては、赤心社から、土功組合設立前の開拓当時の貴重な写真の提供を受けることができ、来場者から大きな反響を呼んだ。

活動経費： - 千円

### これまでの成果

地域の歴史や先人の想いを伝えることによって、改めて自分たちの住んでいる地域を今後とも守っていこうという機運が少しでも高まっていると考えている。

### 今後の計画、見通し

今後とも機会を捉えては、継続的に地域の歴史や先人の想いが伝わる活動を行い、ひいては農地・農業用水等の地域資源の保全に向けて一層の活動の輪が広がることを期待している。



イベントなどで開拓当時の写真を展示し、地域の歴史の伝承を行っている



大正6年、元浦川かんがい用取水口の完成を祝う写真。取水口設置工事は赤心社が行った

## 活動名： アンケート調査の実施

開始時期：平成17年から取り組む

### 活動内容

地域の産業祭りである「柏陽館まつり」の会場内に水土里ネットうらかわコーナーを設置し、訪れた地域住民に対し水土里ネットの役割や農業水利施設の重要性、地域住民等と連携した施設の維持管理等の重要性などについてアンケート調査を実施している。

平成21年度の回収数は約689名となっており、調査結果については、水土里ネットの積極的なPR活動の成果が現れ、地域住民と連携した施設の維持管理の必要性等について、年々理解が浸透している結果となっている。

水土里ネットの役割： 主催、 共催、 協力、 その他  
連携する団体

団体名：北海道日高振興局、水土里ネット北海道

連携に当たり工夫した点

アンケート調査内容等について助言を得た。

活動経費： - 千円

これまでの成果

継続して実施することにより、取り組みの成果が把握でき、特に地域住民と連携した施設管理の必要性について理解が深まっていることが把握できる。

今後の計画、見通し

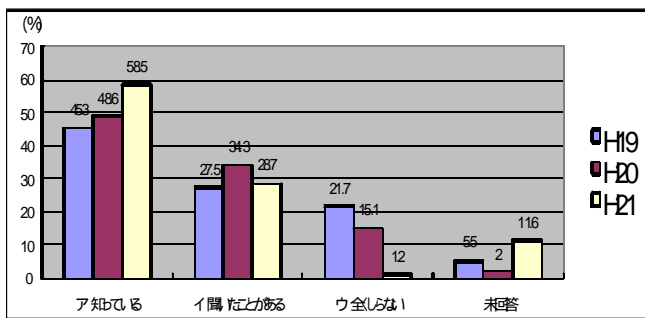
今後も継続的に実施していくこととしている。



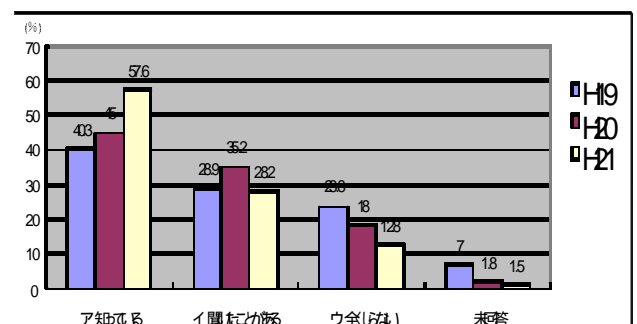
「柏陽館まつり」でアンケートに答える来場者。

21年度は約690名から回答いただいた

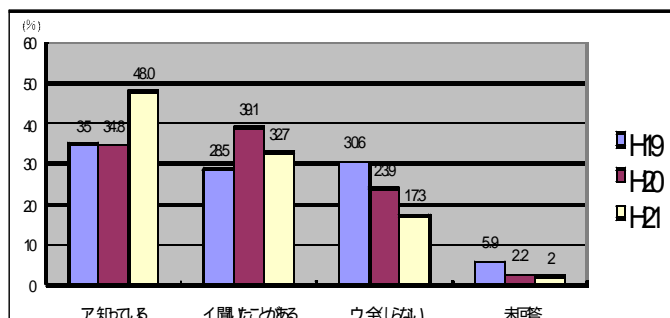
「土地区画整理や水土里ネットの役割について、またはか



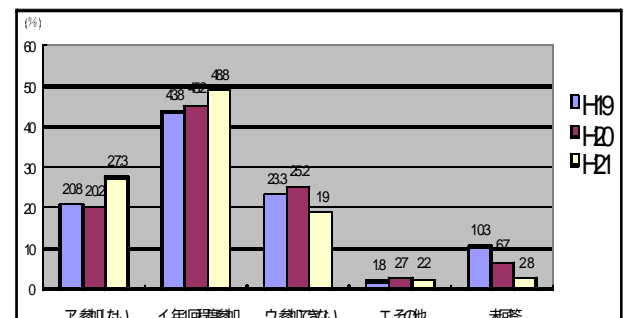
「土地区画整理や田舎を農業用道路で整備し農地を整地することについて、またはか



浦町茶富里上東茶では姉富ふるさと守隊が結成され農地・農業用排水路・農道の草刈などの保全種が水路沿、800mを区画する種が小学校連携して伝統農法による稲作学習と農地の景観保全に取り組んでいますがこの理解について、またはか



農産物産出を向上するため水路沿の環境保全に参加しますか



## 運動の成果

### 1. 関係機関との連携状況（ ）内の1から8に つけてください。複数回答可）

関係機関名	連携の状況	連携の内容	今後の連携の見通し	凡 例
町内会・自治会	(1) 2 3 4	(5) (6) (7) 8	(9) 10 11 12	連携の状況 1.積極的に連携できた 2.一定の協力が得られた 3.今回は連携できなかった 4.全くない  連携の内容 5.共催、協賛、後援 6.活動計画樹立の助言を得る 7.人材派遣 8.資金援助  今後の連携の見通し 9.積極的に連携していく 10.その都度協議していく 11.今後連携の可能性あり 12.全くない
N P O	1 (2) 3 4	5 (6) 7 8	9 (10) 11 12	
教育機関	(1) 2 3 4	(5) (6) (7) 8	(9) 10 11 12	
マスコミ	(1) 2 3 4	5 6 (7) 8	(9) 10 11 12	
農 協	(1) 2 3 4	(5) (6) (7) 8	(9) 10 11 12	
市 町 村	(1) 2 3 4	(5) (6) (7) (8)	(9) 10 11 12	
都道府県 水土里ネット	(1) 2 3 4	(5) (6) (7) (8)	(9) 10 11 12	
都 道 府 県	(1) 2 3 4	(5) (6) (7) 8	(9) 10 11 12	
国	1 (2) 3 4	5 (6) 7 8	9 (10) 11 12	
その他 (農地・水活動組織)	(1) 2 3 4	(5) (6) (7) (8)	(9) 10 11 12	

### 2. 水土里ネットや土地改良施設の役割、それらに支えられている農業農村の多面的機能の重要性について地域住民等の理解の程度について

平成14年から継続して活動している「田んぼの学校」は今年で9年目を迎え、毎年小学校5年生の児童を対象に実施してきたが、参加した児童の延べ人数は1,400人を超えている。単なる体験学習ではなく、米づくりを通して、水土里ネットや農業水利施設の役割、農業・農村の多面的機能の重要性を紹介しているほか、町教育委員会の栄養教諭とも連携を図りながら食育にもつながっている。

水土里ネットの用水路敷地を利用したフラワーロードの植栽活動も今年で9年目となり、年々活動の輪が広がるとともに、町内外にも広く知られ、地域活動の優良事例として表彰されている。さらには、これらの取り組みが他の地域の美しい景観保全づくりの機運の盛り上がりにつながっている。

それらの活動は、新聞やテレビにも数多く取り上げられ、米づくりを体験している子どもや、その家族、学校関係者や地域全体へと広く浸透してきている。

平成17年からは、地域のイベント「柏陽館まつり」に積極的に参加し、継続してアンケート調査を行っているが、年を追う毎に水土里ネットの知名度が上がっており、活動の成果が現れている。

なお、「田んぼの学校」の体験ほ場の提供や田植え、稲刈り等の指導に当たっている組合員（水土里ネット臨時職員）が、北海道日高教育局長から「平成18年度日高管内教育実践奨励表彰」を受賞している。



「田んぼの学校」への支援で、北海道日高教育局長から表彰された組合員の高松良一さん



### 3. 運動が果たす施設の管理や地域資源の保全の強化について

小学校と連携した「田んぼの学校」で、水土里ネットや農業水利施設の役割などを子どもたちにはわかりやすく伝えていくことで、我々水土里ネットの役職員・組合員自信が、水土里ネットの役割を再認識するとともに、地域の農地や農業水利施設を地域の財産として次世代へ引き継いで行かなければならないという決意を新たにしている。

そして、それが農地・水・環境保全向上対策での実践活動となって、施設への愛護と農村地域の環境保全へと繋がっていると考えている。

また、21世紀土地改良区創造運動や農地・水・環境保全向上対策への活動に対し、行政、関係農業団体、地域住民などの多くの方たちの支援や参加があり、これらの活動を通して水土里ネットや農業水利施設の役割、農業・農村の現状等についてそれぞれの立場で関心を寄せてくれることとなった。

「田んぼの学校」を行っている3小学校のうち、2校の活動経費を浦河町教育委員会から財政的な支援を受け、1校の経費は、農地・水・環境保全向上対策の活動経費から支援を得ている。

農地・水・環境保全向上対策による農道や水路の草刈り作業には、自治会の行事の中でも最高の人出となり、農業者・非農業者の地域住民が一体となって地域の資源を保全していこうという意識が非常に高くなってきた。



農地・水・環境保全向上対策がスタートしてからは、自治会から多くのメンバーが農道の草刈りなどに参画している

### 4. 水土里ネットの地域づくりへの関わりについて

土地改良区の名前や存在すら知らなかった地域の人達が、21世紀土地改良区創造運動により「水土里ネット」の名前を覚え、その役割が徐々に認知されてきている。そして、行政をはじめ関係機関・団体からも、土地改良区がこれまでの水を管理する組織というイメージから、広く地域の資源を保全するための主体的・中心的な組織として認知され、まさに「水土里ネット」としての活動に期待が寄せられている。

これからは、地域農業の振興発展にむけて、町・農協・農業委員会・共済組合等の関係機関・団体のほか、非農業者を含めた地域住民等にも一層の理解を得て、連携を図りながら積極的に地域づくりに関わって行きたいと考えている。

### 5. 農地・水・環境保全向上対策への関わりについて

#### (1) 地区内の実施状況

実施地区数 1カ所

実施面積 595 ha

活動組織の構成

水利集落の3つの集落をまとめた地区を設定して活動組織「姉富東ふるさと守り隊」を立ち上げた。農業者、非農業者も含めた3つの自治会、JA、水土里ネット、小学校、排水路管理組合、花植会（はなうえるかむ）が構成員となり活動をしている。

活動の特徴

「姉富東ふるさと守り隊」では、「地域ぐるみで美しい農村景観を創出する」ことを主たるテーマに活動を進めており、構成員の役割分担のもと、

農地・農業施設の適正な保全と長寿命化の推進

花植会や自治会女性部がけん引役となり、水路や農道の施設用地を活用した花の植栽活動を通し

て良好な農村景観の創出

小学校と連携し、米づくりの伝統的農法の体験や生き物調査などを実施し、将来を担う子どもたちの地域への理解と愛着を深め、地域振興に向けた高い意識を醸成を目指している。

水土里ネットの関わり

活動組織のエリアは、全て水土里ネットの地区と重複している。活動組織の代表は、水土里ネットの支部長が務めるとともに、水土里ネットが事務局を担っており、各活動計画の策定や構成団体等との連絡調整、会計事務などを行っており、活動の中心的な役割を担っている。

## (2) 水土里ネットの取り組み

水土里ネットは、農地・水・環境保全向上対策が実施される前から、町や小学校、地域住民、関係団体等と連携を図りながら「田んぼの学校」や「フラワーロードづくり」を進めてきた。

これらの取り組みが評価され、18年度からスタートした農地・水・環境保全向上対策の実験事業ではモデル地区として採択され、同対策の活動と連携した取り組みが始まった。

19年度からの本格的な実施においても、これまで進めてきた「田んぼの学校」「フラワーロードづくり」が同対策の活動に位置づけられて進めることにあり、従前同様、水土里ネットが関係小学校や町教育委員会等と「田んぼの学校」の実施企画の調整を行うとともに、「フラワーロードづくり」においても水土里ネットが中心となって年間活動計画などを調整している。

また、農業用施設の点検や補修については、機能診断や補修技術の助言を行っており、施設の長寿命化を図るための取り組みをしている。

## 6.2.1 創造運動を通じた地域農業振興への取り組みについて

土地利用調整	水利用調整	情報収集及び提供	直売所等への関与
営農支援	実証栽培	土づくり	環境保全型農業の推進
	営農指導	その他：	

その他：美しい農村景観づくり、人材育成、人の交流、子どもたちへの食育、地域資源保全など

## 7. 運動の成果のまとめと今後の展望

80パーセントを超える水田転作率、基幹産業である軽種馬（サラブレッド）生産の低迷により組合員の農業経済が逼迫している中、平成13年度で大規模な農業農村整備事業地区が完了となり、改めて今後の土地改良区財政の中期見通しを試算したところ、現状での運営は困難な状況にあった。

このため、運営合理化のための運営経費削減を行いながら町などへの支援を求めたが、役員会を何度も開催して今後の土地改良区のあり方について検討を重ねていく中で、大切なことを見失っていたことが分かり、21世紀土地改良区創造運動に取り組むこととなった。

役員会では今一度、この土地改良区の設立目的を再確認し、現在の農業の基盤となる土地改良区の歴史やこれまで実施してきた土地改良事業の実績、大河にかかっている土地改良施設の役割などを振り返り、何度も役員会での議論を重ねるうちに、役員も職員も土地改良区としての活動の新たな一歩を踏み出そうという機運が醸成された。

行政や地域に対して支援・協力を求める前に、まずは、土地改良区が存在や役割を地域の多くの人に知ってもらおうと、「田んぼの学校」や「フラワーロードづくり」に取り組んだ。

総合学習における「田んぼの学校」の企画を小学校に提案したが、担当教師も理解を示し、ま

た、体験ほ場の提供や子どもたちへの指導についても組合員は快く承諾してくれた。いざ実践では、子どもたちを前にして米づくりの説明をしている組合員等の姿は自信と誇りに満ちていた。

フラワーロードにいたっては、水土里ネットの呼びかけで、組合員の奥さんたちを中心に「花植会」を結成。忙しい農作業の合間を縫いながら夫婦でフラワーロードを造成していった。

平成14年から始めたこれらの活動は、少ない職員の中、試行錯誤を繰り返しながらも、次第に、北海道日高振興局や町・町教育委員会からの大きな支援を得るようになった。また、この活動を多くの人に知ってもらおうと新聞社やテレビ局に情報提供してきており、これまで多くの活動が記事やテレビのニュースで取り上げられ、併せて、水土里ネットの本来業務である農業農村整備事業についても情報発信できたところである。

これらの活動が認められ、平成17年度に「21世紀土地改良区創造運動北海道大賞」を受賞したことが役職員の一層の励みとなり、平成18年度の農地・水・環境保全向上対策実験事業のモデル地区に採択されてからは、水土里ネットが中心となって3つの集落と各団体をまとめて活動組織の設立に奔走した。平成18年度には、「フラワーロードづくり」が、北海道開発局主催の「わが村は美しく - 北海道」運動の優良活動コンクールで農村景観部門特別賞を受賞、平成20年度には荻伏小学校の「田んぼの学校」を含めた総合学習の取り組みが、同コンクールで人の交流部門銀賞を受賞し、これを契機に一層の活動の輪が広がった。

水土里ネットの歴史を紐解いたとき、開拓者の篤い気持ちに触れることができる。開拓記念碑の碑文には「今ここに私達村人皆が集まって相談し、記念碑を建てようと考えたのは、先人達の尊い業績を敬い、慕い又後世の人達が自信と誇りをもって励んでほしいことを念願するのである」と書かれている。この言葉は、今の水土里ネットに対する先人からのメッセージではないのかと思える。

昼なお暗き原始の森を開拓した大変な苦労の中にあっても、人々の正しい生き方の教育に尽力し、皆協力して美田良畑を耕し、かんがい用取水施設を築造した先人からの財産は、地域の共有財産として、次の世代へ引き継がなければならない。

その役目を担うのが、水土里ネットであることを改めて自覚して行動し、「地域づくり」に貢献していきたいと考えている。

## その他特記事項

### 2 1 創造運動の推進に当たりご意見ご要望があれば記述してください。

この申請にあたり、今までの創造運動での取り組みをあらためて振り返ることができ、そのときの思いや活動に触れることができた。

2 1 創造運動を9年間継続できたのも、地元の関係機関のご協力があったのことに感謝している。これからも、この活動が長く続くように、地域と連携し、自分の身の丈にあった活動を続けたいと考えている。

当町のように特色ある農業を展開している地域の水土里ネットは、その地域の特性にあった事業を展開し、今後とも豊かな美しい農村を創造して行きたい。